

## 特集 湯浅 誠さん 講演会

つながりの中で生きる！～貧困問題から考える日本の未来～

### …… CONTENTS ……

- ★ G-NETしがフェスタ2015
  - ◆オープニング紹介
  - ◆会場の様子、クロージング紹介
- ★ 図書・資料室から
- ★ WO・MANネット講座
- ★ しがパバスクールを開催しました!

Shiga Prefectural Gender Equality Center  
滋賀県立男女共同参画センター  
G-NETしが

「G-NET しが」とは…

滋賀県立男女共同参画センターの愛称で、「Gender-Networkしが」の略。ジェンダー問題を見据えて、男女共同参画のネットワークを広げていこうという思いをこめたものです。

## G-NETしがフェスタ2015

### 【オープニング紹介】

平成27年11月15日(日)、恒例の「G-NETしがフェスタ2015」が開催されました。少子高齢化社会の不安が叫ばれる近年、家族や地域、そして世代を越えた心のつながりを感じられる場にしたいという実行委員一同の願いから、「つなげよう!～未来を担う子どもたちから世代を超えて～」がテーマに設定されました。当日は、女性の活躍やイクメン・カジダンといった意識への啓発のほか、どの世代も楽しめるコーナーが多く企画され、様々な出会いと気づき、つながりが生まれる一日になりました。

オープニングを飾ったのは、子育て中のママで結成している話題のチアダンスチーム、ママチア滋賀「Sparky Jem (スパークージェム)」。

笑顔と元気を届けてくださいました。

「Sparky Jem」 (<https://www.facebook.com/sparkyjem>)



チアリーディングならではのポン文字に、会場も盛り上がりました。

♡ G ♡

NET



# 特集 湯浅 誠さん 講演会

さんかく塾学習編 第2回講座・講演会（平成27年10月18日）

## 「つながりの中で生きる！」

当日は130名を超える参加者を前に、講師の湯浅さんは終始、穏やかな表情と話しぶりで2時間にわたり、難しいことを易しく、易いことを深く、そして深いことを面白くお話してくださいました。

ご講演の中からいくつかのポイントをご紹介します。

### ■ 貧困問題から考える日本の未来 ■

貧困とは、お金がない貧乏とは違い、生きていく活力もなくなった状態をいいます。現在、子どもから高齢者、男性、女性、どの地域でも起こっている問題が貧困です。国際的に見ると、日本の貧困の特徴は、働いているのに貧困という人が多いことです。貧困層の8割が働いているという国は他にありません。「働けば生活できるはず」が常識ではないのが現在の状況です。

さらに少子高齢化が著しく、社会のなかで様々な役割を担う人が減ってきているため、その担い手を増やさないと、いっそう社会が回らなくなってしまう。貧困問題は決して他人事ではありません。未来の自分や家族、社会というつながりをもっているため、最終的な影響を免れることは誰もできないのです。

子どもの数は減っているのに、経済格差の拡大で子どもの貧困が増えていて、それが学力や学歴に影響を与えています。困難な状況にある子どもたちが頑張れるようにすることも必要です。また、社会の担い手を増やすために、高齢者や障がい者たちの活動範囲を広げること、ホームレス、ニート、引きこもり、性的マイノリティーなど、様々な人たちが活動できる社会的環境を整えていくことも必要になります。全員参加型社会の実現に向けて、そういった人たちの力をどう引き出すか。どうやってその場をつくるか。男女共同参画社会を考えていく上でも、私たち自身の広い意味でのサポート能力が大事になってくると思っています。

### ■ 社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）※ ■

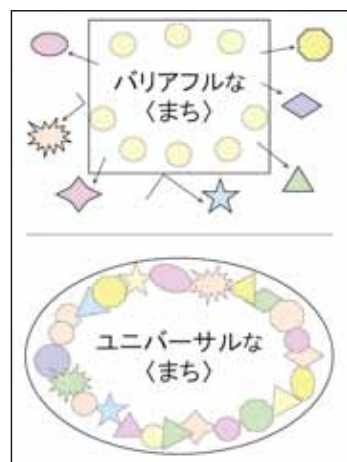
「無縁社会」や「孤族」といった言葉に表されるように、近年、社会における孤立化（社会的排除）のリスクが増大しています。「社会的排除」に対抗する理念として「社会的包摂」という考え方があります。これは、簡単に言うと、老若男女すべての人に「居場所と出番」のある社会のことです。

バリアフルな〈まち〉では、多様な人たちが排除されてしまいます。社会参加のために必要な支援サービスの質・量は人それぞれ違うので、対応は一人ひとり個別に行う必要があります。手間も暇もお金もかかります。

ユニバーサルな〈まち〉では、もともと排除される人がいないので、個別サービスを事後的に構築する必要がありません。結果的に経費は少なく、活力は多くなります。ですから、最初から多様な人たちの参加を踏まえた〈まち〉づくりが必要だと考えられます。今かけるお金以上の効果（今後見込まれる社会保障費の抑制）があることから、「投資」というとらえ方でも有効な方法といえます。

私がかかわってきたホームレス分野では、寝場所や食事、若干の就労活動費など、働くために必要な条件を整えると働くことができるということが分かり、それに対する条件整備が行われてきています。そうしたことを通じて、今まで労働市場の中に入り得なかった多くの人は、「この人たちは入りたくないんだ」あるいは「入るのはそもそも無理なんだ」と言われていましたが、実は条件を整えれば入りたいという気持ちも生まれるし、実際に入ることもできるとわかってきたのです。

しかし、「今、回すお金が減る」「今なんとかしてほしい」という声があるのも事実です。結果が出るのは何十年か後です。ですから実を結ぶことが少しでも見えないと社会の合意は得られません。でも、ほんのちょっと世の中がよくなることを実感できれば、社会の合意が「政策」につながります。



※「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念。国民一人ひとりが社会に参加し、潜在能力を発揮できる環境整備が不可欠。そのために、社会的排除の構造と要因を克服する一連の政策的な対応が「社会的包摂」。（「社会的包摂政策を進めるための基本的考え方」首相官邸「一人ひとりを包摂する社会」特命チーム、平成23年）



## ■ つながりの中で生きる！ ■

本当にしんどい人は、「しんどい」が言えないものです。支援する側から働きかけてSOSを引き出すことで解決への第一歩が踏み出せます。支援する側の支援力とは、声を上げられない状態にある人の苦しみに寄り添い、共有し、そこから抜け出る道を一緒に探すことです。「こっちにすればいいじゃないか」ということではなく、「そっちにいくよ」というアプローチで、ニーズをくみ上げることが大切です。

一方で、受援力（SOSを出せる力）、つまり困ったときに、「困った」と言えることも大切です。日本人は諸外国に比べて、我慢しすぎる面があるようです。もうどうにもならないところまで来ているのに、それでもSOSが出せない人をたくさん見てきました。より早い段階で各種の支援事業にアクセスすれば防げるケースも多いのです。



ところで、皆さんは何着の服をもっていますか。タンスの中には、季節や用途に合った服があるはずですが、人が生活していくためには、場面に応じたいろんな服が必要です。一着しかないというのでは、対応できません。

支援力を考えるとき、状況に応じたアイデアを先ほどの服だとしましょう。支援するということは、頭の中にあるタンスに様々な服がある、つまり複数のアイデアの中からよりよいものを選ぶこと、困っている人に生かされる「答え」を見つけることだと私は考えています。頭の中にあるタンスの中に服を1着ずつ増やしていけばよいのです。これこそ「投資」です。

私にとって、「つながりの中で生きる！」とは、様々な人に関心をもつことです。関心をもてば、困っている人が抱えている課題に気付くことができます。気付く人が増えれば、周りの人たちで対応でき、結局、その地域自体の解決能力が上がっていきます。私たちにできる「行動」としては、政治や行政に参画すること、また、メディアで日々取り上げられる様々な情報に反応する、声をあげるということもあります（マスコミ関係者は、我々の想像以上に市民の反応を意識しています）。気付いた人が現実に関わりをもって、一步一步改善へ向かって努力すること、これが貧困問題をはじめとする日本の課題を解決する答えなのです。

### 興味深い、こんなお話も…

近年の人工知能研究の進展は目覚ましいです。その代表格が最近話題の「東ロボくん」です。これは数学者の新井紀子さん率いる、東大合格を目指す人工知能の研究プロジェクト名称です。研究の裏には「人工知能の弱点は何か」「ロボットにできないこと」を探るといったテーマがあります。

オックスフォード大学の研究者による論文「HOW SUSCEPTIBLE ARE JOBS TO COMPUTERISATION？」（2013年）は、米国における702ある職業のうち、およそ半分が消える可能性があることを述べています。人工知能に取って代わられる職業には、単純作業などの職種だけでなく、銀行の融資担当など、一般的にエリートだと認識されているものも上位に挙がっています。計算したり記憶したりすることはコンピュータの得意分野なので当然です。代替確率が低い、つまりほぼ無くなる職業には、セラピストやソーシャルワーカーが挙がっています。対人支援は人工知能にはできないのです。

人工知能が急速に発達し、東大に合格しようとする現在、人間でなければ解決できない、人間の人間の領域とは何なのでしょう。NPO法人丹後福祉応援団・松本健史さんは「目・腕・心（メデシン）」というキーワードを示されました。「相手ができる動作を観察する目、相手が動作しやすい環境を整えて介助する腕、相手のやる気を引き出して支える心」です。

これまで相手を理解しようとすることは、職業技能としては軽視されてきました。しかし、このことこそ、これからの時代に必要な力です。そして「目・腕・心」こそ支援力のキーワードになります。

（本特集の要旨は、講演の内容の一部を当センターでまとめたものです。）

## — 湯浅 誠さんプロフィール —



社会活動家。法政大学教授。1969年東京都生まれ。東京大学法学部卒。2008年末の年越し派遣村村長を経て、2009年から足掛け3年間内閣府参与に就任。内閣官房社会的包摂推進室長、震災ボランティア連携室長など。政策決定の現場に携わったことで、官民協働とともに、日本社会を前に進めるために民主主義の成熟が重要と痛感する。現在、朝日新聞紙面審議委員、日本弁護士連合会市民会議委員。文化放送「大竹まことゴールデンラジオ」レギュラーコメンテーター。著書に、『ヒーローを待っていても世界は変わらない』（朝日新聞出版）、『反貧困』（岩波新書、第8回大佛次郎論壇賞、第14回平和・協同ジャーナリスト基金賞受賞）、『貧困についてとことん考えてみた』（茂木健一郎氏と共著、NHK出版）など多数。

# ★図書・資料室から★

“G-NETしが”の図書・資料室では、男女共同参画の視点から選書した、多くの書籍・資料を用意して、皆様の利用をお待ちしております。どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

その他に、毎月図書だよりを発行したり、啓発や事業等に合わせたテーマで図書・資料を紹介する特集コーナー展示も開設しています。

## 『「全身〇活」時代』就活・婚活・保活から見る社会論

大内裕和 竹信三恵子 著  
青土社 2014年

就職や結婚など、これまで人生における節目として行われてきた営みが、いまや大変な苦勞を重ね「活動」していかなければならない「全身〇活」時代。そんな現代の若い人たちの置かれている状況に疑問をもった著者2人が行き着いたのは「世代間断層」という現象だった。



### 本の紹介

…明日はわが身…  
～貧困問題を考える本～

## 「LGBT」とは？～性の多様性について知る本～

### 『ふたりのママから、きみたちへ』

東小雪 増原裕子 著  
イースト・プレス 2013年

2013年に結婚式を挙げた東さんと増原さんが、未来のふたりの子どものために、自分たちのこと、将来のことなど、ふたりで話し合い、考えたことをありのままに綴る。



### 『カミングアウトレターズ』

子どもと親、生徒と教師の往復書簡  
RYOJI+砂川秀樹 編  
太郎次郎社エディタス  
2007年

同性愛の子どもから「本当の自分の姿」を告白された大人たち。7組の親子や生徒と教師たちの往復書簡。



### 『老人に冷たい国・日本』 「貧困と社会的孤立」の現実

河合克義 著  
光文社 2015年

30年以上前から貧困と孤立社会の問題について研究している著者が、ひとり暮らしの高齢者の貧困と孤立に焦点をあて、現状を分析。高齢社会に必要な視点とは？



## しがWO-MANネット講座

「しがWO-MANネット登録団体」と当センターがそれぞれの持ち味を活かし、協働して開催する県民向け講座「しがWO-MANネット講座」。今年度実施された講座について紹介します。



### NPO法人男女共同参画をすすめる会 I-YOU淡海

#### ■「もうひと花!咲かせようpart3」

子育てに一段落ついたシニア世代を対象とした、若い世代を支えるためのきっかけづくりになる講座でした。楽しく人と関わり、自分を磨くための場になりました。

◇「パパの子育て・ママ次第」(H27.7.3)

講師：小野元嗣さん

(ファザーリングジャパン滋賀)

◇「津軽三味線&講演」(H27.8.5)

講師：ファミリー劇団「座・クレヨン」

高橋泰久さん、高橋いさみさん

◇「有機野菜を使った健康料理」(H27.10.1)

講師：奥村一代さん

(生活研究グループ会長)

### ワークライフ・デザイン部

#### ■「暮らしを彩る講座

#### ～Work&Life私の生き方～

◇私の挑戦

～小児医療やターミナルケアのボランティア～  
(H27.7.5)

清水千秋さんからスクラップブックの手法と社会貢献について学びました。

◇ハーブティー講座 (H27.11.22)

森澤徳子さん(アロマサロン ラバウザ)から上手にハーブを生活に取り入れる方法や女性の起業について学びました。

◇筆文字&しめ縄飾り教室 (H27.12.6)

横山宮子さん(アトリEm\*f)、増山いづみさん(ROSE+)によるワークショップ。起業のヒントについても考えました。

### 女性史くらぶ

#### ■「女性史カフェ」

◇「女性史年表作り」のワークショップ

(H27 ①7.8 ②8.12 ③9.16 ④10.14

⑤11.18 ⑥12.9 H28 ⑦1.13 ⑧2.10)

案内人：早田リツ子さん(女性史研究家)

G-NETしが図書・資料室にて収集・整理している滋賀県内の男女共同参画に関する

新聞記事(90年代後半～)をもとに、女性史年表作りに取り組みました。

記事から膨らむトークにも花が咲きました。

### お産&子育てを支える会

#### ■「いきいき子育て～子育ての心理学～」

講師：井上知子さん(臨床心理士)

男女ともに、子どものかかわり方に理解を深めることにより、前向きにいきいきと子育てが楽しめる、学びの場となりました。

◇「うまくいかないことを追及しない」

(H27.7.25)

◇「ほめて育てるとやがて子どもは自信を無くしていく」

(H27.8.22)

◇「誰にとっての問題かを明確にする」

(H27.9.26)

### IKASU会

#### ■「ワークもライフも充実させましょう!」

チャレンジ支援講座修了生を講師に迎え、ワークショップを通して、日常の時間から少し離れて自分を見つめ直す講座になりました。

◇女性のための安心温灸お灸講座(H27.9.12)

講師：船田友紀さん

(こびらいふなだ鍼灸マッサージ院)

◇オールシーズン飾れる

「アンティークイメージのリース」(H27.10.3)

講師：廣瀬正子さん

### はあと倶楽部

#### ■「ほっこりはあとカフェ」

仕事や家事によるストレスを和らげるコツや、一歩踏み出すための方法や疑問について、参加者が気軽に交流することができました。

◇秋の実リース作り

～アロマオイルをつけて

香りも楽しみましょう～ (H27.10.22)

講師：ながたちよさん(ちょうちょ結び)

◇アロマでリフレッシュ

～癒しのボディオイル作り～(H27.11.26)

講師：片山あづきさん(WellbeingSpaひまわり)

◇ほっこり♡はあとカフェ

～ゆったり夢を考えよう～ (H28.2.16)

講師：野瀬美奈子さん



# G-NETしがフェスタ2015 【会場の様子、クロージング紹介】

会場では、講座や体験、朗読劇、展示、物販など35ブースの出展があり、朝から大勢の人で賑わいました。



「滋賀のイクメン・カジダンフォトコンテスト2015」の表彰式も! びわこ総文マスコットキャラクター「湖楠(うみな)」も登場!



さまざまな団体が日頃の活動の発表や交流を通して、「男女の自立と共同参画」をアピール!

**クロージング**では、本場江州音頭・3代目家元の真鍮家文好(しんちゅうやぶんこう)さんが見事な歌声でイベントを締めくくっていただきました。一門のみなさんによる踊りの手ほどきや一門の秘蔵っ子2人による音頭の披露もあり、「つなげよう! ~未来を担う子どもたちから世代を超えて~」のテーマにふさわしく、参加者が輪になって大いに盛り上がりました。



真鍮家文好一門 (団体紹介サイト <http://go-shu.biwako-visitors.jp/user/50.php3?code=151>)

ご来場いただいた皆様、工夫を凝らした企画を考えていただいた各団体の皆様、ありがとうございました。

## 「しがパバスクール」を開催しました!

豊かな人生を送るためには、男性にとっても家事・育児に参画することは重要です。そこで、「夫婦で子育てを楽しみたい」、「父子の絆を深めたい」、「家族を喜ばせたい」そんなパパのための3回連続講座を開催しました。

### 〈参加者の声〉

- ・子育てだけでなく夫婦のために話し合うことをしていきたい。笑っている家族を目指すため。
- ・男性の参加するこのような集まりがあまりないので、新鮮でよかった。
- ・同世代のパパの意見に共感でき、持っている悩みは同じだとわかった。

### 〈家族の声〉

- ・いつもは私だけが本など読んで夫婦のあり方などに悩んでいたが、一緒に講座を受けることで悩みを共有できたので良かった。

2015.11.7



↑第1回夫婦講座「パパの子育て・夫婦の子育て」の様子

2015.12.12



### 〈講座プログラム〉

- 夫婦講座「パパの子育て・夫婦の子育て」
- 父子講座「父と子のふれあいワイルドあそび」
- 父親講座「パパの家庭料理大作戦!」

2015.11.21



↑第2回父子講座「父と子のふれあいワイルドあそび」の様子

全講座受講者には「しがパバスクール修了証」を交付しました!

←第3回父親講座「パパの家庭料理大作戦!」の様子

# 滋賀県立男女共同参画センター(G-NETしが)事業のご案内

## ★男女共同参画相談室★

「女だから…男だから…」と差別された、パートナーや恋人からの暴力、夫婦間の問題、セクハラ・パワハラなど、一人で悩まないで、まずは、お電話ください。

【相談専用電話】 <sup>みな</sup> <sup>はなさく</sup> 0748-37-8739

- ◆総合相談（電話・面接・カウンセリング）◆  
火・水・金・土・日曜日 9:00～12:00 13:00～17:00  
木曜日 9:00～12:00 17:00～20:30
- ◆法律相談◆（要予約）
- ◆DVカウンセリング◆（要予約）

※無料託児有り(要予約)

無料相談

秘密は  
厳守します。

## ★女性のためのビズ・チャレンジ相談★

専門の相談員が、起業やキャリアアップ、NPO活動など、チャレンジしたい女性へのアドバイスや情報提供などを行います。（要予約）

お電話でご予約ください。0748-37-3751

※無料託児有り(要予約)

無料相談

## ★滋賀マザーズジョブステーション(近江八幡)★

※滋賀県立男女共同参画センター内にあります。

専門のカウンセラーによる個別相談やアドバイス、仕事と子育てを両立するための保育等の情報、就職ナビゲーターによる求人情報の提供や職業紹介の他、託児もありますので、ぜひお気軽にご利用ください。

- ◆総合受付◆ 0748-36-1831
- ◆利用時間◆ 9:00～17:00（受付 16:00まで）※祝土日も相談できます。（ハロワークを除く。）

## ★滋賀マザーズジョブステーション・草津駅前★

- ◆場 所◆ 草津市大路1-1-1 エルティ932・ガーデンシティ草津 3階
- ◆総合受付◆ 077-598-1480 ◆利用時間◆ 9:00～17:00（受付 16:00まで）
- ◆休 所 日◆ 土曜日・日曜日・祝日・年末年始

無料相談  
託児無料

## ★G-NETシネマ★

男女共同参画のヒントになる映画を上映しています。詳しい内容はホームページで！

◎小学生低学年以下は保護者同伴をお願いします。

※無料託児有り(要予約)

参加無料



JR近江八幡駅下車南口より500m（徒歩10分）  
またはJR近江八幡駅南口から近江バス  
「男女共同参画センター前」下車



## G-NETしが

滋賀県立男女共同参画センター情報誌  
VOL.30

発行日/平成28年3月1日  
編集・発行/滋賀県立男女共同参画センター  
〒523-0891  
滋賀県近江八幡市鷹飼町80-4  
【TEL】0748-37-3751  
【FAX】0748-37-5770

【E-mail】g-net@pref.shiga.lg.jp

【HP】http://www.pref.shiga.lg.jp/c/g-net/

【開所時間】午前9時～午後9時

【休 所 日】月曜日(祝休日除く)・祝休日の翌日・年末年始・施設点検日